

大妻女大：大森正司、矢野とし子、岡本順子、聖カタリナ短大：加藤みゆき

【目的】近年は豊かな食材料に恵まれる反面、肥満、成人病等が急増し、結果的に食の貧困を来している。これは豊かな中での食の選択の偏りであると考えられる。食の選択要因には、利便性、価格、嗜好性等いろいろあるが、その時々時代の時代の反映であると考えられる。本研究では健康問題を、食の観点から明らかにすることを目的として、食嗜好の表現法、構造を解析した。

【方法】試料として、せんべい、かりんとう、ベビースターラーメン、カントリーマーム、ハイチーズ、カラムーチョを選んだ。パネルは本学々生約700人を対象に、エリスの方法を参考にして嗜好調査を行った。また、各嗜好尺度には、その嗜好理由を記述させ、その中の形容詞、形容動詞的用語を集めた。嗜好分類表の改訂版を作成し、これを用いて集められた用語のインデクシング(あてはめ)を行った。

【結果】カントリーマームについては、用いられた用語の数は7~8種というのが最も多く、「ココア色」、「チョコレートのおい」、「やわらかい」、「おいしそうな」、「さくさく」などの出現頻度が高かった。同様に、ハイチーズ：8~9種「食べやすい」、「好き」、「チーズくさい」、「おいしい」等。カラムーチョ：9種「辛い」、「食べにくい」、「からそうな色」、「さくさく」、「おいしい」等。ベビースターラーメン：5~6種「おいしそうな」、「歯ごたえ」、「ぼりぼり」等。かりんとう：7~8種「甘い」、「おいしい」、「歯ごたえ」等。せんべい：5~6種「しょう油くさい」、「おいしそうな」、「こうばしい」、「しょう油色」等であった。